

農空間

第75号

発行所
福島県農林水産部
農村計画課

【特集】多面的機能支払交付金 による共同活動の 継続について!



農村地域では、過疎化、高齢化等に伴い集落機能が低下してきており、今後、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の維持・発揮に支障が生じることが懸念されています。

このため、平成19年度に地域の農業者等が取り組む共同活動を支援する農地・水・環境保全向上対策(現多面的機能支払交付金)が開始され、福島県内では、平成30年度において、53市町村、1,416組織において、農振農用地面積の約45%にあたる63,515haで取り組まれています。そのうち、平成26年度に多面的機能支払交付金を導入し、平成30年度で5年の活動期間の終了を迎える組織が約650組織あります。そこで、活動期間終了時に必要な手続きをご説明します。

一つ目は、地域で目指す地域資源の保全管理の姿、取り組むべき活動、方策を取りまとめた地域資源保全管理構想の作成です。ひな形を参考に地域で検討し、作成したものを市町村へ提出することになります。これを作成しない場合は、活動期間の初年度まで遡って交付金の返還となります。

二つ目は、交付金の精算です。活動期間終了時に残額がある場合は、市町村へ返還してください。翌年度以降も活動する場合は、翌年度の交付金が交付されるまでの間に必要な金額のみ持ち越しができます。

三つ目は、事業計画の再認定です。翌年度以降も活動を継続する場合は、作成した地域資源保全管理構想に基づき新たな事業計画を作成し、組織の総会などを経て、事業計画を市町村へ提出し、認定を受けてください。



水路の補修などを共同活動で実施

これまで、当該交付金を活用して、地域資源の適切な保全管理、地域コミュニティの活性化等を行ってきた活動組織においても、高齢化等により共同活動の継続が難しいとの声が多く聞かれます。事務負担の軽減や組織の広域化による体制強化に対する支援も行っていますので、活動の継続に向けた検討をお願いします。

なお、事業内容や活動に対する支援については、各農林事務所農村整備部や市町村担当課までお問い合わせください。

【農林水産部 農村振興課】

地域に根ざした 水土里ネット

会津

「戊辰戦争で白虎隊が通った伝統ある洞門」



戸ノ口堰土地改良区

戸ノ口堰土地改良区の歴史は古く、天和9年(1623年)に猪苗代湖より自然流下している日橋川より取水し、母なる水として戸ノ口堰が生まれました。現在は受益面積1,302ha、組合員数は1,072名で会津若松市、湯川村の一部を受益地としており、会津盆地の中心で古くから会津米として名が高い水田地帯であります。

今年で戸ノ口堰が生まれて395年になります。戊辰戦争で白虎隊の少年達がこの戸ノ口堰の洞門を通って飯盛山に辿り着いた話は有名で、毎年9月下旬には一般の方々に洞門を實際にくぐって頂く催事を行っています。

この母なる水は、会津若松市のかんがい用水、環境用水、飲料水、工場用水、小水力発電用水(会津若松市一箕町大字八幡地内 平成30年10月竣工。落差19.5m)と幅広く利用されており。

また、農業農村整備事業においては、ほ場整備事業(高野地区)や農業水路等長寿命化・防



飯盛山洞門ここにあり



ドキドキの洞門くぐり!



洞門入口で戸ノ口堰を学びます

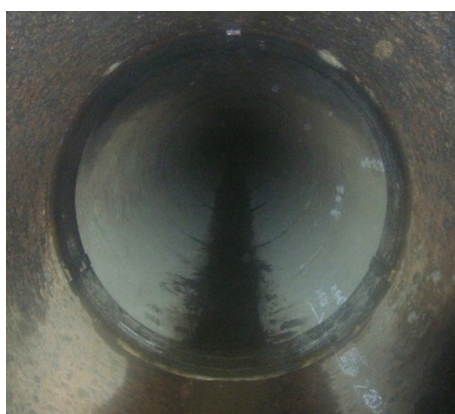
災減災事業(鍋沼地区)に取り組みしており、今後も先人が築き上げた伝統ある戸ノ口堰を永年に守って行きたいと思えます。

【戸ノ口堰土地改良区】

県内からの便り

県南農林事務所

今回ご紹介します隈戸川地区の管水路は、水田809haにかんがい用水を供給する重要な幹線水路ですが、東日本大震災以降、合計6回の漏水事故が発生し、その都度止水バンドやモルタル等により補修工事を行ってきました。

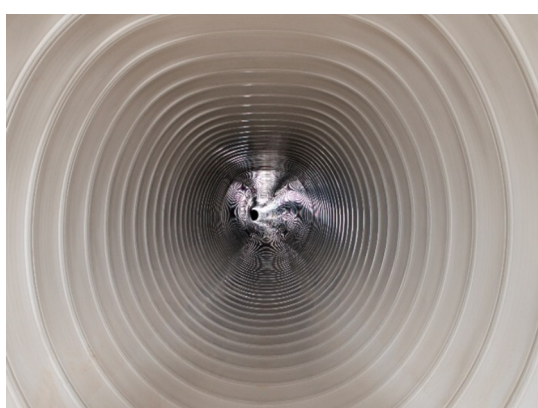


【工事前】止水バンド補修状況

しかし、いずれも根本的な解決にはならないことから、今後の維持管理費用の軽減や、安定した用水供給及び近隣民家への被害防止を図るため、平成29年度に既設管内(RC管φ1,500×1,650mm)を硬質ポリ塩化ビニル製の帯板状部材でスパイラル状に巻き立てるダンビー工法により、L1482m区間の管更生工事を実施しました。



地下で行われている工事の様子



【工事完了】スパイラル状です



歩道をしっかり保護

管水路が町道の歩道下に埋設されていることから、工事期間中は歩行者への安全を最優先するとともに、施工機械の下全面にブルーシートを敷いて歩道を保護するなど、環境対策にも重点を置きながら工事を行い、事故や大きなトラブルもなく、工事を完了させることができました。

また、県内では施工事例の少ない工法であるため、関係者への現場研修会を開催し、本工法の普及や情報提供に努めました。工事完成後は、かんがい期間中の安定した用水供給が回復し、震災からの復興を支える重要な施設としての役割が期待されます。

【農村整備部】

地中に張り巡らされた管路 ネットワークを守る技術!

福耕支援隊情報



相双農林事務所農村整備第二課では、南相馬市鹿島区と原町区北部の農地復旧を担当しています。業務内容は、被災した農地の復旧や今後の営農の効率化を図ったほ場整備を行っています。当課では、今年度は7名の福耕支援隊の応援をいただき、日々の業務に励んでいます。ここで、7名の皆様からのメッセージをご紹介します。

【秋田県】

中村 寿喜 技師 (原町東地区担当)



秋田県から福島県に派遣されて8ヶ月が経ちました。復興支援の業務を通して、多くのことを勉強させていただきました。残りの期間も少しでも、福島復興に役立つよう努力を続けていきます。そして秋田に帰った後は、福島のように復興をたたくさんアピールしていきたいと思っています。

【青森県】

竹花 信之 技師 (原町東地区担当)



同じ東北ですが、青森からは車で5時間以上かかる福島県に訪れる機会は多くないため、この1年が貴重な経験になっています。8年近くも復旧の現場に立ち続けている福島県プロパー職員の皆様の力に少しでもなれるように努力しながら、健康にも留意して1年を完走させたいと思っています。

【新潟県】

関 敏明 主査 (原町東地区担当)



震災から約7年9ヶ月が経過し、着実に一步一步前に進んでいます。「福島こんなに復興したんだ」と新潟の皆にこれからも発信していきます。



【埼玉県】

宮島 陽一 技師 (八沢地区担当)



自分のできる仕事以外の復興は、福島県を楽しみたいと考えています。これからも時間が許す限りその魅力に触れ、それを埼玉県民へも伝えていきます！

【青森県】

神保 利幸 主査 (八沢地区担当)



青森県から参りました神保です。担当する復興事業には、課題も多い状況です。相双地区が、一日でも早く本来有るべき姿にもどれるように、微力を尽くしていきます。

【沖縄県】

照屋 央 技師 (八沢地区担当)



沖縄県の照屋です。復興支援に派遣された先輩職員の話聞き、復興のために力になりたいという思いが強くなり派遣を希望しました。少しでも役に立てるよう頑張ります。

【静岡県】

丸山 豊樹 技師 (八沢地区担当)



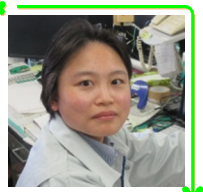
静岡県の丸山です！父が白河出身ということもあり、小さい頃はよく白河のおばあちゃん家に遊びに行っていました。第二の故郷である福島県のために頑張ります！

新規採用職員の紹介

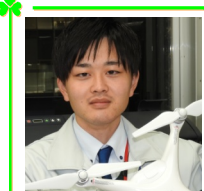
①本庁農村整備総室 農村振興課 高橋 将哲
②いわき市 農学部 共生環境課程
③大学で学んだ農業土木の知識を生かした仕事がしたいと思い、大学3年生の夏にインターンシップに参加したことが決め手となり、福島県を志望しました。現在、農地耕作条件改善事業や「ふくしまの農育」推進事業等を担当し、先輩方からご指導をいただきながら、勉強の日々です。12月には農育の合同成果発表会の立ち上げから運営まで携わることができたことで、多くのことを学び、仕事へのやりがいを感じています。一日も早く一人前になって、本県の農業・農村の振興に貢献できるように、仕事に生活に一生懸命向き合っていきます。



①県南農林事務所 農村整備課 齋藤 由佳
②喜多方市
③地域環境科学部 生産環境工学科
④大学を卒業してから様々な仕事を経験してきましたが、そのなかでも農業農村整備に関わる仕事をしたことがきっかけで農業土木の仕事に魅了され、独学で本職を志しました。現在は、県単基幹水利施設ストックマネジメント事業棚倉地区の監督員としております。工事の監督員として独り立ち出来るように、精進を重ねて参りますのでよろしくお願いいたします。



①会津農林事務所 農村整備課 菊地 佑
②大玉村
③地域環境科学部 生産環境工学科
④幼い頃から農業に携わり、福島県の震災復興に貢献したいという志望しました。地すべり対策事業の磐見Ⅲ地区、揚津地区と県管理施設維持管理事業の会津農林地区を担当しております。設計書作成や工事の監督業務等を行っています。自分なりの考えを持って、失敗を恐れずに様々なことに挑戦していきたいと思えます。よろしくお願いたします。



4月から農業土木職員の一員です！



①本庁農村整備総室 農村計画課 陸 智志
②伊達市
③地域環境科学部 生産環境工学科
④東日本大震災からの復旧・復興という大きな課題を抱えている福島県で、農業土木の分野で貢献したいと思い、本職を志望しました。業務は、福島県農村整備環境技術検討会を担当し、事業実施に向けた環境配慮について有識者から助言をいただき、自然環境との両立を目指した工法を検討しております。入庁してから半年以上経ちましたが、いつも周りの方々に助けられてばかりの現状ですので、少しでも早く先輩方に追いつき、県民の方々から期待される職員を目指したいです。そのため、広い視野とチャレンジ精神を忘れずに、毎日たくさんのお話を聞いていきたいと思っております。



編集後記

平成30年11月5日(9日)、東京都の農林水産省にて、『岩手県・宮城県・福島県農業農村復興復興展』を共同開催しました。震災から8年目を迎える今後、パネル展など様々なメディアを活用し、本県の復興のあゆみが形として見えるよう全国へ発信していきます。【農村計画課】



約800名の来場がありました

「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間の事です。